

昭和44年の海外関係業務をふりかえって

地質調査所における海外関係業務は、開発途上国に対する専門家の派遣、技術研修員の受入れ、エカフエとの協力などを中心として進むことを目標としているが、この目標には除々にではあるが近づき、成果をあげつつあるように思われる。42年度から始まった2つの集団研修コースは第3年目を迎え、東南アジア地域のみならず中近東・アフリカの国々をも含めて、多くの国に認識されつつある。また、各国に派遣されている所員の業績はいずれも高く評価され、滞在期間延期の要請や引き続き他のプロジェクトへの派遣要請が多い。一方、わが国の鉱業界の世界各地への進出も著しいが、当所の専門家の派遣や技術研修員の受入れが、そのような進出に対し直接間接に寄与している面も少なくない実状にある。

44年に実施した海外関係業務の状況はつぎのとおりである。

1. 在外研究員(留学)関係

科学技術庁の本年度在外研究員として、地質部 盛谷智之はアメリカのウッズホール海洋研究所に、昭和45年早々に出発の予定である。本年内に、技術部地球化学課 柴田賢(カナダ 地質絶対年代)、燃料部 坊城俊厚(アメリカ 海洋地質)、技術部地球化学課 安藤厚(アメリカ 地球化学)、鉱床部 佐々木昭(カナダ アイソトープ地質)は所期の目的を達成して帰国し、今後それぞれの分野における活躍が期待されている。なお、地質部 河内洋祐(ニュージーランド 構造地質)、応用地質部 長谷絃和(アメリカ 写真地質)は引き続き海外留学を行なっている。

2. 技術研修員の受入れ

沿海探査および地下水開発の2つの集団研修コースは第3年目を迎え、第1年目、第2年目に見られた混乱や欠かんはかなり改められ、ことに研修員から強く要望のあった実習強化についてはできうるかぎり希望に沿えるよう努力中である。すなわち、沿海探査集団研修コースでは、東海大学所属の海洋調査船「東海二世号」による西南九州海域での実習を実施し、また、地下水開発集団研修コースでは、海外技術協力事業団の茨城県内原実習場における水井戸掘さく実習などを新たに取り入れ、研修員の現場経験を豊富にするよう努めた。

海外地質調査協力室

個別研修としては今年はじめに、台湾 聯合鉱業研究所 陳肇夏氏が地熱開発の研修、同じく鄭清泉氏が物理探査技術の研修を当所で受けた。また台湾 聯合鉱業研究所 ト昂華所長は高級研修員として日本政府の招聘で9月上旬来日し、石炭鉱業、金属鉱業、地熱発電、窯業関係の諸施設、および地質調査所などを視察した。

トルコ 鉱業研究所の原子力課長 Muzaffer Andaç 博士は、放射性鉱物鉱床の研究のため10月上旬来日し、2ヵ月間当所および動力炉・核燃料開発事業団で研究を行なった。

そのほか、チリー、アフガニスタン、エクアドル、ブラジルなどの国々からも研修希望が寄せられている。

集団研修および個別研修を受けた海外からの研修員はこの3年間で10数カ国60数名に達し、帰国後のこれら研修員はそれぞれわが国で習得した技術を活用し、自国の発展に寄与しており、当所としても今後増加するこれら帰国後の研修員に対する接触を密にする体制の整備が必要になってきた。

沿海探査集団研修(44.5.10~44.12.20)

国 籍	氏 名	現 職
中 華 民 国	Po Hsiang Chen	經濟部聯合鉱業研究所
"	Mingson Juang	中国石油開発公社
インドネシア	Mohamad Boesono	鉱山局金属部
韓 国	Won Young Lee	地質調査所
フィリピン	Pedro S. Estupigan	鉱山局地質部
サウジアラビア	Ameen A. Basalamah	鉱物資源省
タ イ	Sernsakdi Kuivanich	国土開発省鉱床部
ベ ト ナ ム	Thu Le Trong	経済省

地下水開発集団研修(44.6.1~44.12.20)

国 籍	氏 名	現 職
アフガニスタン	Ali Mohammad Murad	水資源土壌調査局
セイロン	M.C. Denzil Vernon Aponso	灌漑局
中 華 民 国	Chun Tong Wu	台湾水資源管理局
エチオピア	Ahed Omer Idris	土木省水資源局
インドネシア	Adijono	水理局
"	Tjetjep Sudjana	公共事業省水資源局
イ ラ ン	Hosein Arfa	公共事業省水資源研究所
韓 国	Byong Soo Choi	地下水開発公社
ラ オ ス	Ny Phommachanh	土木省水理港湾局
フィリピン	Lamberto Bert Abreca	水道局
サウジアラビア	Mohammad Abu Butain	農業水資源省
タ イ	Watcharin Nakwatchara	灌漑局

3. 専門家派遣等

44年も前年に引き続き コロンボプラン等による専門家派遣 海外受託などの要望が多い。

北海道支所 沢俊明は42年6月にトルコの鉱業研究所に派遣され 同国における銅鉱床探査に著しい成果をあげ さらにわが国からの専門家派遣の端緒をつけた。

現在 地質部 沢村孝之助とともにさらに大規模な調査団を編成し 外国の専門家と鉱床探査の成果を競っている。 鉱床部 竹田英夫はエクアドルの地質調査所に派遣され 4カ年間にわたり同国の地質鉱床調査に従事するとともに キート中央大学において地質学科学士の指導を行ない 日エ両国の技術協力で多大の成果をおさめ さらに わが国の鉱山業界がエクアドルではじめて銅鉱床開発に進出する糸口を作り 本年末に帰国した。 サウジアラビア調査団は 昭和38年に第1次が派遣されて以来 今年第4次が派遣されるまで延べ30名に近い専門家が同国の地下資源探査に従事し 最近わが国関係業界が同国の地下資源に注目するようになった基礎資料を提供した。 エカフエ沿海鉱物資源共同探査調整委員会(CCOP)に 技術顧問として2カ年間バンコクに派遣されていた 物理探査部 佐野俊一は6月に帰国し 引き続き 同部の小谷良隆が後任として派遣され エカフエ地域で今後ますます盛んになる沿海鉱物資源探査に技術顧問としての活躍が期待されている。

最近の傾向として 専門家派遣の任期は2年以上の要望が多くなった。

4. 国際会議

エカフエ沿海鉱物資源共同探査調整委員会は 毎年1

昭和44年中に派遣された専門家

目的	氏名	派遣先	期間
地化学探査	竹田 栄彦	台 湾	44. 3. 2~44. 6. 1
物理探査	小野 吉彦	" "	" "
分光分析指導	伊藤 司郎	エクアドル	44. 3. 20~44. 7. 15
鉱床探査	沢村孝之助	トルコ	44. 3. 27~46. 3. 26
エカフエ事務局	小谷 良隆	タイ	44. 5. 9~46. 5. 8
鉱床探査	広川 治	サウジアラビア	44. 5. 16~45. 11. 15
"	高橋 清	" "	" "
"	五十嵐俊雄	" "	" "
"	磯山 功	" "	" "
海洋調査	水野 篤行	ソ 連	44. 5. 29~44. 6. 4
"	中尾 征三	" "	" "
"	望月 常一	" "	" "
鉱床調査	嶋崎 吉彦	マレーシア	44. 6. 16~44. 6. 28
"	関根 良弘	イ ラ ン	44. 6. 24~44. 7. 23
"	安斉 俊男	アフガニスタン	44. 7. 1~44. 9. 10
"	大沢 穰	サウジアラビア	44. 11. 8~46. 5. 7
"	桂島 茂	" "	" "
"	後藤 準次	" "	" "

回開催され今年の第6回会議を 5月11日から6月1日までタイのバンコクで開催した。 早川物理探査部長は日本代表5名とともに本会議に出席し 技術顧問会議の有力メンバーとして活躍した。 この委員会はさらに発展をとげ 今回あらたにマレーシアがメンバー国として参加した。 インド洋周辺諸国の間でも同様な委員会が設立されることになり 今回の会議に引き続いて準備委員会が開かれ 早川部長はこの会議にも出席した。

今年の秋はわが国において 例年になく多くの地質関係の国際会議が開催され 来日した各国の研究者が多数当所を訪問し 研究討論の機会をもつことができた。

国際粘土学会議は9月5日から9月10日まで東京で開催され 当所からは5名が参加登録を行ない研究発表および討論会に参加した。

質量分析国際会議は9月8日から12日まで京都で開催され 当所からは2名が参加登録を行ない研究発表ならびに討論に参加した。

地盤沈下に関する国際シンポジウムは9月17日から20日まで東京で開催され 当所から数名の研究者が研究発表するとともに討論に参加した。 なお 会議の後に行なわれた新潟見学旅行においては 当所で数年間にわたり実施しているアイソトープを利用した 地盤沈下観測井が被露され現地討論が行なわれた。

地下水資源および人工地下水に関する専門家会議は国際連合の主催によりニューヨークで 10月上旬約2週間にわたり開催され 応用地質部 小西泰次郎が日本代表として出席した。

エカフエ第4回石油資源開発シンポジウムは4年に1度開催され 第3回会議は東京で開かれた。 今回の会議はオーストラリアのキャンベラで10月27日から11月10日まで開催され 当所からは研究論文のみが発表された。

海外関係業務の拡大とともに 最近当所を訪問する外人の数は年毎に増加の傾向にあり その内容も研究者との討論 わが国における地質 地球物理関係の窓口的なものと 多種多様にわたるようになってきた。

地質調査所の海外関係業務の重要性は次第に認識されつつあり 高く評価されてきているので 今後十分な成果を挙げるには なお一層の努力をするとともに 所外からも多くのご協力を期待する次第である。

昭和44年中に当所を訪問した外国人

月日	氏名	国籍	現職
2. 18	P. N. Selivanov	ソ連	レニングラード北極地質研究所
"	K. E. Veselov	"	モスクワ地質調査所
2. 26	D. M. Baird	カナダ	国立科学博物館長
3. 3	Reinemund	アメリカ	地質調査所海外部長
"	Littlewood	"	アメリカ大使館科学情報官
3. 24	C. Y. Li	エカフエ	エカフエ産業天然資源部次長
4. 8	E. H. MacDonald	オーストラリア	鉱山資源局
4. 25	W. Schmidt	西ドイツ	海洋研究所
"	F. Wilkers	"	"
5. 1	B. N. Nandi	カナダ	燃料研究所
"	吳源	韓国	国商工部
5. 14	I. Mikhaltsev	ソ連	海洋研究所
"	V. Kouylin	"	"
"	O. Sorokhtin	"	"
5. 30	金元	韓国	地質調査所
6. 9	Brown	アメリカ	サウジアラビア調査団長
6. 27	H. Daus	フィリピン	海外研修員
"	N. Burgos	"	"
"	T. Onslly	タイ	"
6. 27	M. Mendes	ポリビア	"
7. 10	H.S. Taylor Rogers	オーストラリア	エカフエ顧問

月日	氏名	国籍	現職
8. 15	D. F. McSweeney	オーストラリア	オーストラリア大使館
8. 28	Sang Keun Chun	韓国	国科学技術庁次官補
9. 2	V. A. Korobeinikov	ソ連	"
"	A. I. Okhinchenko	"	"
9. 5	J. H. Bradley	アメリカ	アメリカ大使館
"	M. H. Po	台湾	聯合鉱業研究所々長
9. 11	梁啓	豪	" 所員
"	金玉	準	"
9. 12	李正	韓	国延世大学教授
9. 17	L. W. Stach	エカフエ	ニ鉱物資源開発課長
9. 19	Serkysyan	ソ	連モスクワ石油地質研究所
9. 18	R. L. Malcolm	アメリカ	地質調査所
9. 20	陳培	源	台湾大学
9. 25	蔣允	韓	国鉱山会社
"	B. I. Johnson	アメリカ	地質調査所デンバー支所
"	J. F. Poland	"	"
10. 1	Yacov K. Bengier	イスラエル	ヘブライ大学
10. 6	G. I. Barnes	アメリカ	コンサルタント会社
"	商仁	錫	韓 国地質調査所

(昭和44年10月末現在)

海外との交流(39・4~44・12)

国名	対象別	年度																	
		39年度			40年度			41年度			42年度			43年度			44年度		
		技術協力	留学	受入研修員	技術協力	留学	受入研修員	技術協力	留学	受入研修員	技術協力	留学	受入研修員	技術協力	留学	受入研修員	技術協力	留学	受入研修員
韓国			1	2					2			3	1		1				2
台湾		5	1	6					2			5	6		5				4
フィリピン			1						7			3			2				2
ブラジル												1			1				1
ベトナム												1			2				1
マレーシア		2										2			1				2
インドネシア		2						1				5		1	2				3
アフガニスタン												1			1				1
アイスランド			1			2						1			1				
サウジアラビア				6					1			7			1				7
タイ		1											1		1				1
トルコ			1						1			1			1				1
アメリカ			3	2					1			2			1				1
カナダ												1			2				1
ニュージーランド												1			1				
オーストラリア				1															
西ドイツ		1											1						
フランス			1											1					
イタリア																			
スペイン		1		1							4								
アルゼンチン									1										
ソ連															4				
合計		10	6	5	16	3	2	8	0	9	28	5	27	15	2	21	14	1	22